

3月30日土曜日、藍野病院6階にて、『「認知症」という病気について』のタイトルで家族教室でお話しました。

47年前に出版された有吉佐和子「恍惚の人」は、社会に認知症について問題提起をし、それも契機となり2000年に介護保険が出来て「介護の社会化」が起こったが、一方で認知症になったら怖い、という先入観を与えてしまった影の面もあったこと、2025年に向けて「医療モデル」だけではなく「社会モデル」の考え方が必要であるが、その一つの取り組みとして、演者の関わっている、「みんなの認知症情報学会」での「上野流認知症見立て塾」の活動や、「ユマニチュード」そしてそのAIによる解析のことを話しました。

次に「認知症見立て塾」で、認知症の見立ての手順をみんなで学ぶ意義として、「社会モデル」はもちろん大事であるが、その前にしっかりと「改善可能な認知症」に気が付き「医療モデル」で改善できるものはきちんと改善させる重要性を話しました。また認知症は何らかの原因で認知障害が起こって生活障害が起こった「状態」であり「病名」ではないこと、アルツハイマー型認知症ではアミロイドβをターゲットにした治療がなかなか上手くいかない現状を話して、受け皿としての社会の認知症に対する理解と適切な対応が大切なことをお伝えしました。

老年心身医療センター 園田 薫

